

## 庭の造形 2005年

中部国際空港旅客ターミナルビル アクセスプラザガーデン「瓦の庭」  
大岐阜ビル公開空地、屋上庭園、壁面緑化  
石橋家庭園

### Garden Projects 2005

Access Plaza Garden of Central Japan International Airport  
Public Plaza, Roof Garden and Wall Planting of Dai Gifu Building  
Japanese Garden of Ishibashi Residence

岡田憲久

Norihisa Okada



中部国際空港アクセスプラザガーデン「瓦の庭」を連絡通路より見下ろす（2005年7月）



中部国際空港旅客ターミナルビル アクセスプラザガーデン「瓦の庭」  
Access Plaza Garden of Central Japan International Airport



円周の小端立てサン瓦は動きが出るよう円弧の長さのバランスを見てデザイン。(2005年1月)

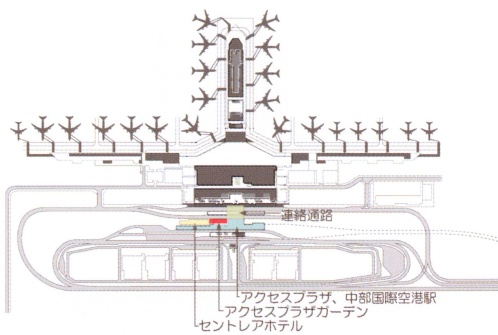


左：ノシ瓦とカメブスマの平敷きで2,620mm幅のボーダーをつくっている。カメブスマの凹凸とノシ瓦の柔らかい膨らみが大きなスケールの中で陰影をつくる。 右上・下：手前にサン瓦の小端立てを円形に配した部分。ノシとカメブスマのボーダーと円がぶつかる。(すべて2005年1月)

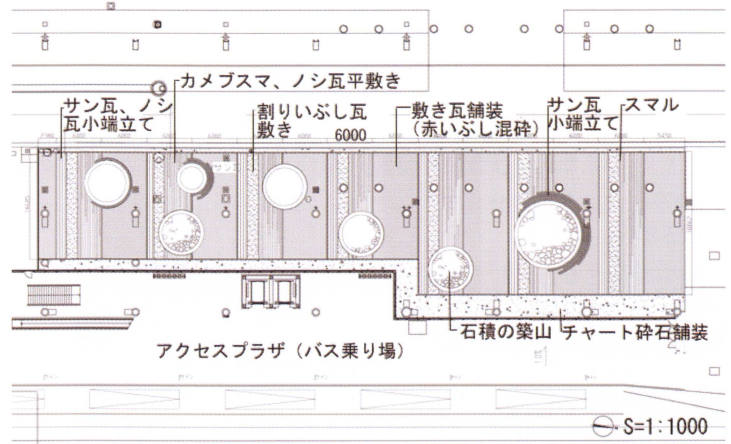




アクセスマラザガーデンからターミナルビルを見る (2005年7月)



アクセスマラザガーデン位置図



アクセスマラザガーデン平面図

○出迎え空間としての和のモダン・ランドスケープ

中部国際空港に到着した人々、特に海外からの利用者に対し、「いぶし瓦」という日本の素材・ディテール、雰囲気をもった和のモダン・ランドスケープで出迎える。

○地場産業の素材の魅力をアピールする

中部国際空港の立地する常滑周辺 (特に高浜市、碧南市等) は三州瓦の産地であり、地場産業の瓦をランドスケープの素材とすることで、瓦の新しい一面を多くの人々にアピールする。

○繊細な陰影の連続で構成されたランドスケープ

私の瓦を使用した一連の作品の新たな発展形であり、茶庭など日本庭園の中では「かわらけ」として使われてきた瓦を、よりスケールの大きいランドスケープという空間の主要な素材とした。

長い歴史の中で練られてきたそれぞれの瓦の形体の洗練された美しさがまずあり、それらを小端立てに詰め込むことで生じるボリューム感が迫力を生む。同時に、同じ製品でも焼きもの特有の微妙な形の違いと、手仕事で並べることで生まれる人間的なゆがみが、微妙な細かい陰影をつくりだし、光の当たり方でその表情も移り変わる。「…われわれ東洋人は何でも無い所に陰影を生じせ

しめて、美を創造するのである。(中略) 美は物体にあるのではなく、物体と物体との作り出す陰翳のあや、明暗にあると考へる。」瓦の庭をつくりはじめた当初から心にとめていた谷崎潤一郎「陰翳礼賛」のこの一節が、まさに瓦の繊細な陰影の連続をあらわしてくれているのではないだろうか。

〈作品データ〉

- 作品名：中部国際空港旅客ターミナルビル  
アクセスマラザガーデン「瓦の庭」
- 所在地：愛知県常滑市
- 全体ランドスケープデザイン・設計監理：  
日建設計ランドスケープ設計室 三谷康彦
- 瓦デザイン協力：  
名古屋造形芸術大学 岡田憲久 (景観設計室タブラ・ラサ)
- 瓦施工部分：愛知県陶器瓦工業組合の協力・施工
- 瓦部分計画設計期間：2003年7月～2004年11月
- 瓦部分施工期間：2004年12月～2005年1月
- 規模：約1,365m<sup>2</sup>
- 瓦使用枚数：約4万5000枚
- 使用瓦名称：棧瓦 (さんがわら)、熨斗瓦 (のしがわら)、素丸 (すまる)、亀伏間 (かめぶすま)



大岐阜ビル 公開空地・歩道状空地、屋上庭園、壁面緑化  
Public Plaza, Roof Garden and Wall Planting of Dai Gifu Building



JR岐阜駅北口再開発地区に建設された23m×14mの公開空地。将来は歩道橋によってJR岐阜駅と名鉄新岐阜駅へ通じる。(2005年5月)



植栽樹によって軽く囲まれ、中で寛ぐことも通り抜けることもできる。(2005年5月)



吐水口。音による和みの空間。後ろの壁にはルーバー用の大型タイルを詰め織部釉などの陶板を配した。(2005年5月)



水景施設。舗装は1800×300のミカゲ石スクラッチ仕上げ。織部釉陶板などのモザイク模様と埋込型照明を散らしている。(2005年5月)



カツラの植栽樹に設けたベンチ。(2005年5月)





西側の壁面緑化。ヘデラの他、フジ、ヤマホロシ、トケイソウなど花の咲くツル植物を各種混植している。(2005年10月)



屋上庭園はビルのオーナー企業のプライベートなエリアとなっている。常緑のオリーブをメインに、その背後に数種類のかん木を混植した「吹寄せ」と呼ばれる刈り込みを配してボリュームある緑を演出した。(2005年5月)



夜間の照明。舗装の埋込照明と水底の照明が印象的。(2005年5月)



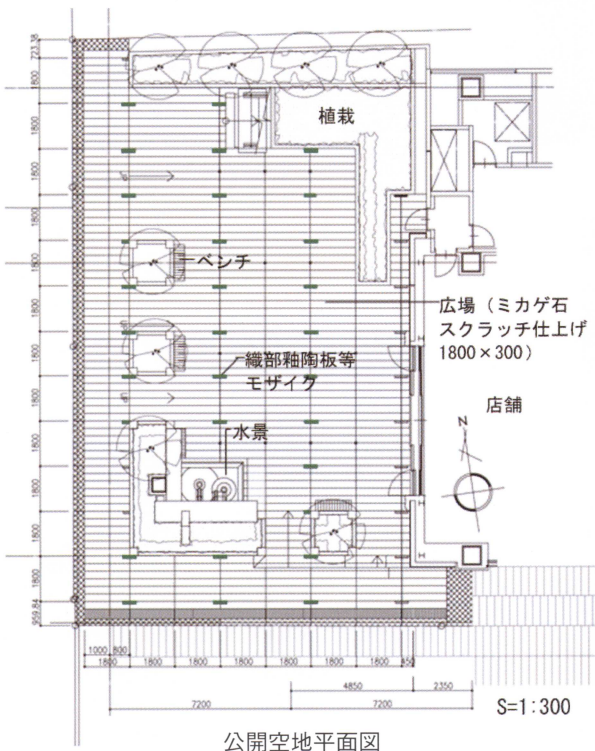
JR岐阜駅側から見た大岐阜ビル外観 (2005年5月)

都市の人工的な場を潤いある空間にするよう、公開空地としての小広場、壁面緑化、そして屋上庭園を連続させ、立体的な緑地の創出を試みている。広場のポイントとして水景をデザインし、通行する人々は街角で心地よい水の音を聞き、カツラの木陰で休むこともできる。水景の水は地下水位の高さを利用してポンプアップしたものを使用している。水景の壁面や舗装には岐阜の歴史を感じせる織部釉のタイルをはめ込み、地域性を取り入れながら広場のモダンなデザインのアクセントとしている。

緑のあり方とデザインのきめ細かさが、JR岐阜駅前第一種市街地再開発の第一号として今後に一石を投じる屋外デザインとなってくれればと願う。

〈作品データ〉

- 作品名：大岐阜ビル公開空地・歩道上空地、壁面緑化、屋上庭園
- 所在地：岐阜県岐阜市
- 建築設計監理：(株)日本設計
- 施工：竹中・土屋共同企業体、(株)岐阜造園 (造園緑化部分)
- 設計期間：2001年7月～2003年3月
- 施工期間：2003年12月～2005年5月
- 規模：公開・歩道状空地約320m<sup>2</sup>、屋上167m<sup>2</sup>、壁面330m<sup>2</sup>
- 主要施設：舗装、植栽、水景、ベンチ、屋上庭園、壁面緑化、照明



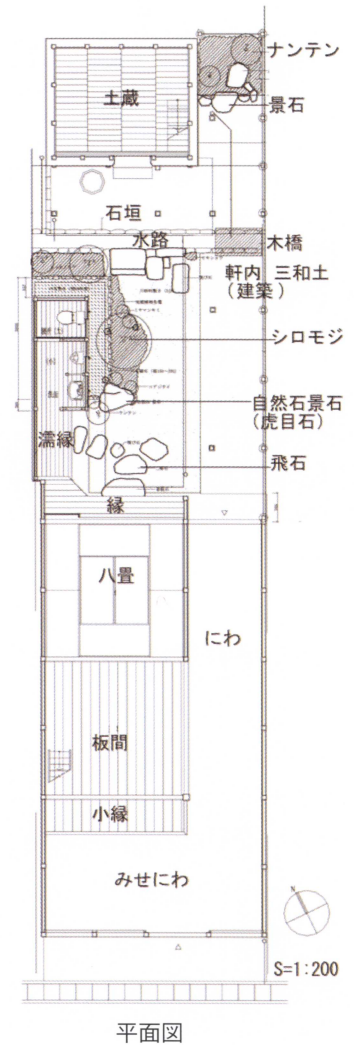


## 石橋家庭園

### Japanese Garden of Ishibashi Residence



虎目石と呼ばれる地元の自然石や現場発生材を主に用いて整備を行った。



岩村城の麓、重要伝統的建造物群保存地区に指定された東西約1.3kmに及ぶ町人町の一角に、江戸時代末の商家建築の石橋家がある。これを平成15年に岩村町（当時）が買い取り、公開家屋として整備した。中央の通りに面して主屋を配し、正面右手に通り土間を設け、中庭の奥に蔵が建つ。中庭には天正疎水が走り、洗い場として使われていたようである。この疎水を生かして動線と緑をあしらい、庭とした。

#### 〈作品データ〉

- 作品名：石橋家庭園
- 所在地：岐阜県恵那市岩村町
- 建築設計監理：株式会社 林廣伸建築事務所
- 造園施工：熊谷佳樹園
- 設計期間：2004年3月
- 施工期間：2005年2月～2005年3月
- 規模：約28㎡
- 主要施設：飛石、景石、水路石垣、シロモジ



左上：八畳の間から中庭を見る。 左下：石橋家外観（共に林廣伸撮影）

右：各戸を流れる水路。この降り口と石垣を補修した。（写真はすべて2005年3月）